

IgG4関連疾患のフロントランナー 難病の新規治療法を探索



膠原病の大半は、治療法が確立されていない難病です。膠原病のスペシャリストであり、IgG4関連疾患学会理事長も務める川野充弘教授に、IgG4関連疾患やシェーグレン症候群などの研究、そして医師としての思いを伺います。

たちが発見しました。

日本で発見した疾患群を世界へ発信

膠原病は、皮膚、筋肉、内臓など随所が障害される全身性自己免疫疾患群です。その代表格は、全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、全身性強皮症、多発性筋炎、血管炎。このうち関節リウマチは人口の約1%が罹る高頻度の疾患です。「どこの診療科にかかれればいいの?」という患者さんにわかりやすいよう、当科はリウマチ・膠原病内科を標榜しています。

研究に関しては、シェーグレン症候群とIgG4関連疾患に力を入れています。前者は涙腺と唾液腺を特異的に障害する全身性疾患です。症候群のうち「抗セントロメア抗体陽性シェーグレン症候群」は私

たちが発見しました。

後者のIgG4は免疫グロブリンの一種です。IgG4関連疾患は、血中IgG4高値、組織へのIgG4陽性細胞浸潤、諸臓器の病変が特徴です。代表的疾患はミクリツ病（涙腺と唾液腺に病変）と自己免疫性脾炎ですが、かつては異なる疾患と見なされました。

ところが2001年、信州大学の川茂幸先生が高IgG4血症を報告したこと为契机に、IgG4関連疾患という新しい疾患概念が誕生したのです。2009年、厚労省に研究班ができ、11年には、米国と日本が合同で国際シンポジウムを開催しました。こうして診断基準やIgG4関連疾患への疾患分類、治療ガイドライン作成、啓発活動など、IgG4関連疾患の研究は日

が、これを使うとCOVID-19

B細胞標的療法を試しています

作用が懸念されます。欧米では

粗鬆症、糖尿病、動脈硬化の副

作用が大変高い。一方、長期使用は、骨

筋肉の効果が良好と奏功し

ますが、投薬を止めると再燃率

が高くなることがあります。



そうそうたるメンバーが執筆し、川野教授らが編集した
IgG4関連疾患の「バイブル」

金沢大学附属病院 リウマチ・膠原病内科
先端医療開発センター特任教授
かわの みつひろ
川野 充弘氏

1987年 金沢大学医学部卒業
1998年 金沢大学第2内科非常勤講師
1999年 金沢社会保険病院血液浄化療法部部長
2003年 金沢大学医学部保健学科看護学講座部講師

2005年 金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科助手
2006年 金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科講師
(科長、病院臨床教授)
2017年 Royal Adelaide Hospital短期留学
2023年 金沢大学附属病院先端医療開発センター特任教授